

特集

# 英語教育を受けるなら今治市



今年4月から市内の小中学校に配置するALT(外国語指導助手)を、昨年度までの17人から40人へ増員し、小中学校1校に1人のALTがいる体制が始まりました。授業はもちろん、休み時間や学校行事など、日常の中でも英語に触れられる環境が広がっています。



## この春、今治市の英語教育が大きく動き出す



interview

アルバノ ダニカ ジェイン ペラーレス先生

生徒たちはとてもフレンドリーで、先生方も協力的です。授業では、英語で自分の考えを伝えられるようサポートしていきたいです。また、日常生活で使える実践的な英語に触れながら、自分の思いを表現できるように支援したいと思います。

# なぜ英語教育が 必要なのか

子どもたちには将来、国や地域を越えて多くの人と関わりながら生きていく時代が訪れます。

言葉は、人とつながり、可能性を広げるための大切な道具です。海外の人と一緒に働き、相手の文化や価値観にふれる。こうした“世界とつながる社会”の中で、自分の考えを伝え、互いを理解する力がますます重要になっていきます。



人とつながり、協力しながら  
生きていく時代へ

英語を「使い」「伝える」力を  
育てる

世界で挑戦できる力

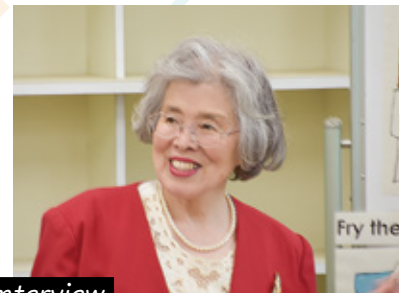
今治市には、海事産業やタオル産業など、  
世界で活躍する企業が数多くあります。

## 子どもたちに世界に通用する英語力を

約40年前、今治市が初めてALTを迎え入れた際、その現場にいたのが元英語教員の丹下晴美さんです。言葉も文化も違う街に一人飛び込んできたALTとの日々を、「私を頼ってくれて、二人三脚で支え合いました」と笑顔で振り返ります。その後、丹下さんの働きかけで、市内の学校とイギリスやスウェーデンの学校との交流が実現。その経験から「教科書を読んで訳すだけでなく、自分の考えを伝える英語を教えたい」という思いが芽生え、教員人生の転機になったと語ります。

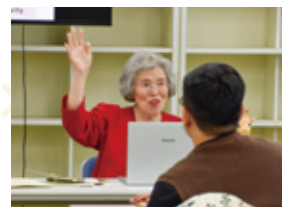
生きた英語を教えるには「中学校からでは遅すぎる」と考えた丹下さんは小学校教育へ転じ、鳥生小で6年、城東小で3年、校長として総合的な学習の時間と英語を結びつけた教育を実践。子どもたちが地域を学ぶことで「伝えたい」気持ちを引き出し、その思いを英語で世界へ発信できる力を育ててきました。

4月30日に行われたALT研修会では講師として登壇し、自身の体験談や授業の工夫を共有。参加したALTは熱心に耳を傾けていました。「世界に通用する英語を子どもたちに身につけてほしいと願う丹下さん。後輩の教員たちには「英語を通して子どもたちのグローバルな人生観を養ってほしい」と呼びかけます。「優秀なALTたちと力を合わせれば、きっと実現できます」。今治の英語教育の未来に、温かくも力強いエールを送ってくれました。



interview

丹下 晴美さん



### これまでの課題

これまでALTは複数の学校を掛け持ちしていたため、ひとつの学校にいられる時間が限られ、授業の準備や先生との打ち合わせが十分にできませんでした。そのため、子どもたちが英語にふれる環境づくりにも課題がありました。

今治市では、こうした課題を解消するための新しい取り組みを始めています。詳しくは次のページで紹介します。

NEXT PAGE



HELLO!



## 今治市の取り組み

### 1 英語をもっと身近に

今年度からALTを40人に増員し、小中学校1校に1人を配置しました。これにより、授業の中で会話や発音など実践的な学びが充実します。  
「話してみたら伝わった」  
「英語であいさつできた」  
そんな小さな成功体験の積み重ねが、自信につながります。



### 2 幼児期から英語に親しむ

公立保育園で行っているイングリッシュティーチャー派遣を、希望する私立園にも拡大します。さらに高校への派遣も検討中です。幼い頃から英語や外国文化にふれることで、自然な言語感覚や国際感覚を育みます。



### 3 生きた英語体験 イングリッシュキャンプ

毎年大人気のイングリッシュキャンプ。楽しみながら英語を学ぶ体験活動を拡大します。

- 小学生1dayキャンプ  
全9回／定員720人(80人×9回)
- 中学生2dayキャンプ  
全4回／定員92人(23人×4回)



### 世界とつながる 学びを、今治から!

充実した教育環境を目指して

今治市は、フィリピン共和国ラプラプ市と国際交流協定を締結しました。ラプラプ市には、英語を母国語としない子どもたちに英語を教えるための指導資格の認定機関や英語教員養成大学があり、英語教育の拠点として知られています。今回、同市から新たに迎え入れたALTは、英語指導資格や教員免許を取得し、ラプラプ市の推薦を受けた確かな指導力を持つ人材です。質の高いALTが学校に常駐することで、より実践的な英語教育の展開が期待できます。

フィリピン共和国ラプラプ市  
シンディ・チャン市長





## 4 英検受検を応援

英検3級以上の検定料を全額補助しています。  
(利用者数 昨年約500人)

令和9年度までに、中学3年生の  
英検3級相当の取得率を60%以上に  
引き上げることが  
目指しています。



## お知らせ 今治市における これからの英語教育について

7月11日(土) 13:30~16:00

- 会場…波方公民館大ホール(収容人数550人)
- 講師…英語教育アドバイザー  
細田 眞由美(前さいたま市教育長)

### トークセッション

- ・今治市長 徳永 繁樹
- ・今治市教育委員会教育長 小澤 和樹
- ・英語教育アドバイザー 細田 眞由美
- ・FC今治高等学校里山校長 辻 正太

今治市政広報番組(南海放送)  
「i.i.imabari! 未来への新しい風  
~瀬戸内から世界へ~」



YouTube

## 5 英語力を見える化

中学2・3年生を対象に、GTEC(英語技能テスト)を実施し、  
課題を教育委員会が把握していきます。



「瀬戸内の世界都市」を目指して、子どもたちが国際  
社会で活躍し、自分たちの夢を実現できるよう、これ  
からも英語教育の充実に取り組んでいきます。

■問合先 教育大綱推進課  
TEL 0898-36-1611

